



～情報セキュリティ～

精神保健福祉士 宮本 秀和

企業や行政、そして医療機関などが、サイバー攻撃の被害を受けているニュースをよく聞くようになりました。最近では、企業や病院が、ランサムウェアというマルウェアの被害を受けたとの報道が多いです。

ランサムウェアとは、コンピューターのファイルやシステムを使用不能にし、その復旧と引き換えに金銭を要求するソフトウェアの事で、語源は、ransom（身代金）+ware（ソフトウェア）からです。ITのスキルや知識が高い人材がいる大企業でも起こりうる事なので、ITに詳しい人がいない病院や施設などが攻撃を受けたら、どう対応・対策していいかわからないと思います。

2022年に、大阪府の病院が、ランサムウェアの攻撃を受け、電子カルテが暗号化され、診療や検査・救急患者の受け入れが一切できなくなったニュースがありました。完全復旧までに2か月間かかったそうです。大企業だけでなく、病院や図書館など、様々な所が、ランサムウェアの攻撃を受けているのが現状です。

ITに関し、高度な知識や技術を持ってなくても、人の心理的な隙やミスにつけ込んで、秘密情報を盗み出す手法を、ソーシャルエンジニアと言い、言葉巧みにパスワードを聞いたり、肩越しに入力操作を見たり、ゴミ箱をあさったりする手法もあります。

情報セキュリティ対策としての技術面は、知識やITスキルがないと難しいと思いますが、人的対策は、各々の企業や病院でも出来ると思います。

例えば「機会（1人の担当者に権限が集中など）・動機（借金やお客の情報に興味があるなど）・正当化（給料が低いのが悪いなど）」の3つが揃った時に内部不正や犯罪が起こりやすいと言われ、それを不正のトライアングルと言います。その3つが揃わないように対策するのも大事かもしれません。

大事なIDやパスワードなどの個人情報に関して、個人で対策できることもあります。以前は、数か月ごとにパスワードを変更しましょうと言われていましたが、最近はコアパスワードを利用する事が勧められています。

コアパスワードの作成として例えば、

- ・ラグビーが好き→rugby、
- ・1文字目を大文字に→Rugby、
- ・高校時代の背番号が13→Rugby13。
- ・記号で / を入れる→Rugby 13/

このRugby13/をコアパスワードにし、前半にサービスごとの文字列を入れてパスワードを作り完成です。

AmazonならRugby13/ama、JCBカードならRugby13/jcbとサイトごとにパスワードが変わりますが、コアパスワードは、同じなので後半（前半）部分だけを変えて利用することで、管理も簡単に、そして、もしパスワードが流出しても、他のサイトにはログイン出来ないため被害は小さく済みます。もしいろんなサイトのパスワードで管理が難しくなっている場合は、上記のようなコアパスワードを考えてみてはいかがでしょうか。



